社会学概論
Introduction to Sociology

IKEGAMI Satoru
池上　賢

科目ナンバリング：DEC-2-360-11/DIB-2-441-11/DLP-2-365-11
商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目

■授業の目的及び到達目標
社会学とはどのような学問なのか。それはなにを問いの対象とし、他の学問とは異なるどのようなことを明らかにしてきたのか。この講義では、社会学がこれまで展開してきたさまざまな概念や命題について概説する。なお、以下の 2 点が到達目標となる。

１．社会学の基本的な考え方や概念・方法・問いなどについて、その特徴を理解している。
２．現代社会で起こっている事項について社会学的に検討することが出来る。

■授業計画
1 イントロダクション、社会学の概観
授業の進め方、受講時の注意、成績評価などについて説明を行う。また、社会学は、どのような歴史的状況の中で、どのようにして生まれたのか、また社会をどうとらえているのかという点について学ぶ。
2 社会と個人（１）
「人はなぜ自殺をしてしまうのか」（＝社会は個人にどのように影響を及ぼすのか）という点について、デュルケム『自殺論』から学ぶ。
3 社会と個人（２）
引き続き、デュルケムの様々な理論を参照し、「社会とは実在するのか？」という点について考える。
4 個人と社会（１）
「人々の行動が社会を形作っていくプロセスや仕組み」について、ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を中心に学習する。
5 個人と社会（２）
「なぜ、労働者は苦しい思いをしなければならないのか？」という問題について、マルクス『資本論』から考える。
6 相互作用（１）
「なぜ人々は“空気”を読んでしまうのか」という問題について、ジンメルの理論から考える。
7 相互作用（２）
引き続き、「なぜ人々は“空気”を読んでしまうのか」という問題について、ゴフマンの理論から考える。
8 国家と権力（１）
「なぜ特定の人間は偉いのか？」という問題について、ウェーバーの“支配”の正当性に関する理論から考える。
9 国家と権力（２）
「偉い人やルールに、我々はなぜ無意識に“従って”しまうのか？」という問題についてウェーバーに加えて、フーコーの理論から考える。
10 国家と公共性
「社会学は「民主主義」をどのように考えてきたか」という問題についてミルズやハーバーマスの理論から考える。
11 逸脱
逸脱や犯罪に関する社会学的な考え方について、ランドル・コリンズやデュルケムの理論から考える。
12 権力と抵抗
「日常的な活動の中の抵抗」についてカルチュラル・スタディーズの議論から考える。
13 まとめ
これまでの授業内容を振り返る。

■授業の方法
授業は講義形式で行う。各回の授業では最低限の事項が書かれたレジュメ（電子版）を事前に授業支援システムにて配布し、適宜解説を行う。受講者はレジュメに適宜加筆するなどとともに、毎回の講義後はコメントを提出する。コメントに対して次の回の冒頭でフィードバックを行う。

■予習・復習
予習：事前に電子版のレジュメを配信するので、必要におうじて印刷し、授業前に目を通しておくこと（紙媒体のレジュメは配布しない）（1 時間程度を推奨する）。
復習：授業終了後、学習した理論を踏まえて、現代社会のどのような問題に適用できるのか考えること（1 時間程度を推奨する）。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
WEB 上で実施する小テスト（授業内容の理解度を測るものとする）30%、最終レポート課題（授業内容を踏まえて、現代社会の問題や現象について自分なりに考察するレポート）70%

■教科書・参考書
以下の文献を参考書とする。
土井文博・萩原修子・嵯峨一朗編，2007，『はじめて学ぶ社会学――思想家たちとの対話』ミネルヴァ書房
那須寿，1997，『クロニクル社会学――人と理論の魅力を語る』有斐閣

■関連する科目
社会学